

(略) 昭和17年には戦争に使う飛行機のガソリンがなくなり、松の葉を蒸して油を取る  
ことになりました。福山の奥の沢に入って大きな釜が5つも備えてありました。山子(や  
まご)注: 杣夫・木こり)さんが大きな木をノコギリで切りたおし、当時国防婦人と言っ  
ていた婦人方が各部落ごとに割り当てをして、冬季に毎日毎日松葉取りのため、馬そりで  
働きに行きました。

私も小さい子どもを年寄りに預け、松葉枝を束ねた物を釜まで運びに行かなければなら  
なくなりました。

当時は役場から徴用書が来て、その期間中、福山の松葉取りに行く令書です。行ってみ  
ると10名来ておりました。飯場に泊まって働きます。(飯場賃は60銭でした)

また、地方では前年から北見バス、網走バスは全部木炭を炊いてガスで走っておりまし  
た。炭の原料は雑木ですから、今の農協牧場に炭焼き窯が5ヶ所もありました。その時の  
農家の作業機械は皆、ガスを使って作業をしました。ですから、山はみるみるうちに木が  
なくなりました。(略)

昭和19年、軍用材として吉野(隈川)、今の町の水源地帯の奥の沢で、松の木も雑木も  
全部切ることになりました。

その時は、漁業者、農業者、さらに商業者も全部徴用でした。遠い所なので、全員飯場  
に泊まりました。近い所の日吉、吉野の人は通っていました。その時は飯場に灯油がなく  
てたき火の明かりで食事をしました。クツの代わりにわらで作ったツマゴをはいて、その  
足にセーターの悪い物を足に巻いている人、あるいは自家用の綿羊で作った手袋、靴下を  
はいている人もいました。

その年は雪が多くて、地方の国防婦人の方が頭にネルをかぶって首に巻いていました。  
足にはわら靴をはいている人が多かった。

軍用材は今の日吉の農協支所の前の常呂川の縁に積んだ。(略)

春に氷が溶けて木材を川に落とし、今のバイパス橋の所に太いワイヤーロープを岸から  
岸へ渡して軍用材を溜めるのです。

流れてきた木材を今の堤外に上げるので、全部馬で引き上げました。

残念なことに人夫が1人、川に落ちて死亡しました。その時に大変気の毒なのは、お通  
夜も告別式にもお寺さんがいないのです。お寺さんも徴用で釧路の春採炭鉱に働きに行っ  
て留守でした。その時は配給で線香もろうそくもなく、本当に気の毒でした。野花1つと  
麦飯だけでした。

今の堤外地からレールを敷いて、トロッコに木材を積んで常呂病院の裏を通って、小学  
校の前を通ってヤマヤ(注: 平成元年度時点)の店の前から橋(注: 窪地を渡す橋)を渡  
って大沢木工場に積み込みました。(略)

\*注: このレール(軌道)に関して、昭和24年9月20日に軌道が通っていた大通り住民  
一同から村議会に対して軌道撤去の請願が出され、常呂村から軌道を敷設(昭和

18年)した北見管林署に対して撤去の申し入れをし、昭和25年3月28日に北見管林署から撤去するとの回答あり。